

天遊

大阪教育大学 広報誌

VOL.3 2005. SPRING

未来を見つめる



《特集》

卒業生は、いま

卒業生は、いま

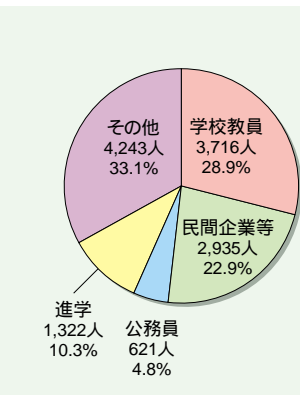
大阪教育大学では、毎年約1000名強の学部学生約200名強の大学院生の他、あわせて約1300名の方々が卒業(修了)生として送り出しています。この10年間は12800名余りの方々が自らの進むべき道を目指して大阪教育大学を卒業(修了)していききました。卒業生(修了生を含む)の主な進路先としては、過去10年間の統計では、大学全体では学校教員が最も多く、28.9%が小・中・高や特殊教育諸学校の学校教員となっています。続いて民間企業等22.9%、公務員4.8%、進学10.3%となっています(グラフ1参照)。大学全体の自身をもう少し詳しく見てみますと、教育学部教員養成課程(第一部)では、過去10年間の統計で学校教員が40.4%、民間企業等14.8%、公務員3.8%、進学10.6%に對し(グラフ2参照)、同じ教育学部でも教員免許状の取得を卒業要件としない教養学科では、学校教員7.6%、民間企業等40.6%、公務員4.7%、進学14.4%となつていきます(グラフ3参照)。また、

大学院では、36.8%が学校教員、続いて民間企業等15.7%、公務員6.9%、進学5.5%となっています(グラフ4参照)。さらに民間企業等の内訳をみますと、大学全体ではサービス業が49.3%と最も多く、続いて製造業18.6%、卸売・小売業16.4%、金融・保険業7.4%となっています(グラフ5参照)。

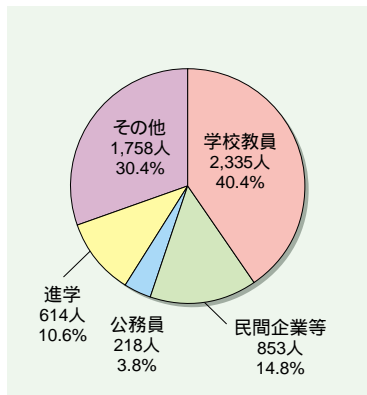
このように、大阪教育大学の卒業生は学校教育のみならず、様々な分野で活躍していることがわかります。今号では「卒業生は、いま」と題した特集を組み、大阪教育大学で学びそして卒業された7名の方々に、在学当時を振り返りながら、現在の仕事、これからの事などについて原稿を寄せていただきました。

卒業生は大学にとって大切な財産です。その活躍が教育の成果です。大学で学んだ数年間を糧に、社会へ出て研鑽を積み重ねさらに成長し続けてくれることは、大学にとって大きな喜びであるとともに、そういった人材育成こそが大学の使命であるともいえます。単に卒業生を社会へ送り出せば終わりということではなく、社会に出た卒業生が大きく飛躍できる、そのための4年間あるいは2年間であるべきだと考えます。

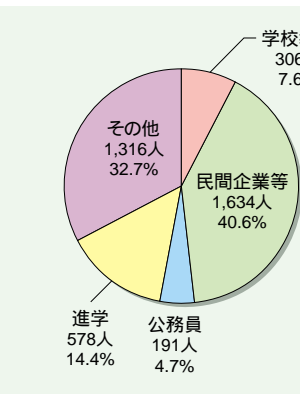
大阪教育大学は多くの卒業生に支えられています。これからも多く卒業生とともに歩んでいきたいと思



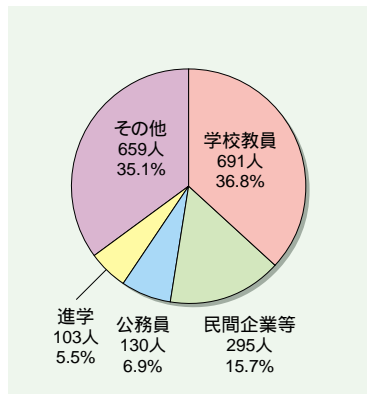
グラフ1: 過去10年間の卒業・修了生進路先 (大学全体)



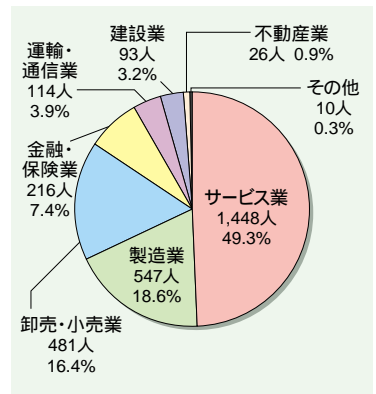
グラフ2: 過去10年間の教員養成課程(第一部)卒業生進路先



グラフ3: 過去10年間の教養学科卒業生進路先



グラフ4: 過去10年間の大学院修了生進路先



グラフ5: 過去10年間の民間企業等進路先内訳 (大学全体)

平成7年から平成16年までの10年間 毎年5月1日又は6月1日現在の集計



和佐 眞宏

◆大阪府教育委員会事務局教育監◆

先般、本稿の依頼を受けてふと考
えて見ますと、私自身この3月末を
もって36年にわたる教育公務員の生
活を終えることになりましたので、ま
さに来し方を振り返る良い機会を与
えていただいたと思いました。

高校卒業後2年遅れの1965年
に大阪学芸大学小学校課程理学科に
入学し、2年間で天王寺分校で過
3回生からの2年間で天王寺分校で

した。生物の専攻でしたので卒業論文
の関係で徹夜での観察もあつたため
しばしば研究室で寝泊りしたことな
どが懐かしく思い出されます。

1969年学名変更後の大阪教育
大学を卒業し、同年東大阪市立日新
高校を皮切りに、高校教員の生活が
スタートしました。1972年新設と
なつた大阪府立の摂津高校に転じ、生
物の教員としてまた生徒指導担当と

して12年を過ごした後、1984年
大阪府教育委員会事務局の高校教育
担当課であつた指導第一課の指導主事
として教育行政への第二歩を踏み出し
ました。当時、高校教育における最も
大きな課題は急増する中学校卒業生
をどのようにして高校に受け入れを
図るかということでした。高校の新設
増学級、学級定員の引き上げ等々に
より受け入れを優先するいわゆる「量
的拡大」の時期でありました。この中
学校卒業生数の急増は、1987年
の約14万8000人をピークとして
急減に転じて現在は半数を切る状況
になっていますが、その後、教育現場で
教頭6年、校長を1年経験した後、
1998年再度教育委員会事務局
に高校教育課長として勤務すること
になりました。今度は生徒減少期の
真只中、生徒減少期を教育の充実を
図る好機と捉え、教育改革の行動計
画としての「教育改革プログラム」策
定作業に具体的に取掛かるという
「質的充実」を図る時期でありました。
翌1999年4月に策定を終え、こ
のプログラムに沿つた改革を進めるべく
2000年5月から組織の改変を行
ない現在に至っています。

今日、「改革」という言葉を抜きに

教育を語ることはできないと言われる
一方で、「つした風潮を捉えて、改革病」
と揶揄する向きもありますが、教育
は人を対象とした創造的な営みであ
ることからすると、社会や子どもを取
り巻く環境、地域など、刻々変化する
状況を踏まえた改革への努力を怠つて
はならないと考えています。教育の現
場においても日々子どもを前にして何
が真にベストかを考え、指導方法等の
工夫・改善を進める「先生」が求めら
れています。ひとりでも多くの方がこ
のような教員を目指していただくこと
をOBの一人として切に願っております。

和佐 眞宏(わさまさひろ)

- 69年 教育学部小学校教員養成課程理科専攻卒業
- 69年 東大阪市立日新高等学校講師
- 72年 大阪府立摂津高等学校教諭
- 84年 大阪府教育委員会事務局指導第一課指導主事
- 89年 大阪府教育委員会事務局指導第一課管理係長
- 91年 大阪府立東豊中等学校教頭
- 94年 大阪府立茨木高等学校校長
- 97年 大阪府立福井高等学校校長
- 98年 大阪府教育委員会事務局高校教育課長
- 00年 大阪府教育委員会事務局教育振興室副理事
- 01年 大阪府教育委員会事務局教育振興室長
- 03年 大阪府教育委員会事務局教育監

「子どもから教えてもらっただよ。」これは、大学・大学院の恩師の言葉です。

現在、私は小学校に勤務しています。大袈裟かもしれませんが、寝る間もなくなり、目まぐるしい日々を送っています。自分の勉強や研究だけをしていればよかったです。学生時代と比べると、まるで別世界のように感じます。だから、これまで私は教師に向いているのだろうか・・・と不安さえ抱くこともありました。そんな中、この言葉が、私を何度も救ってくれました。

2003年4月、期待と不安に胸をふくらませながら、教壇に立ちました。顔は何か笑ってはいるけど、体はカチンコチン。37人を目の前にして右往左往。10年間励んできたバドミントンで培った度胸も、どこへやら。授業の準備も追いつかない。その日暮らし。あつという間に4月が終わってしまいました。5月に入っても不安がいっぱいで、無味乾燥した時だけが過ぎ去っていき、まるで、私の周りには、分厚い壁があるかのように、重い空気がのしかかっています。ところがクラスの子どもたちは、そんな私でも一人の先生として見てくれていました。「先生、聞いて。昨日ね・・・」、「先生、あそぼ。」と笑顔で話しかけてくれました。そんな子どもたちには私はよく、「頑張った分、結果がついてくるよ。道は自分で開くのだよ。」と言っていました。

ある時、半分癡になつたその言葉を投

げかけていた時に、そっくりそのまま自分に言い聞かせているような覚えがしました。「どうして気付かなかったのだろう。」強烈な稲妻とも言える電気が、体を駆け巡つたのを今でも昨日のことのように覚えています。

私は、これまで自分なりに頑張ってきたのです。結果がすぐに出ないだけです。道を開こうとしているのに、どうして自らを応援できなかったのだろう。もやもやしていた頭の中が、急にすっきりしました。そして、恩師の言葉を思い出していました。「子どもから教えてもらっただよ。」

自分で開こうとしている道は、自らの応援だけでは切り開けない。子どもから教えてもらった答えと合わさず、ようやく開けるのです。嫌なことがあれば嫌な顔をする。楽しい勉強をしていれば、瞳をキラキラ輝かせている。どのようになればもっと楽しく遊べるのかというところも知っている。子どもはきちんと、「先生、私はこつだよ。よく見て。」と訴えてくれます。「なんだ。そういうことか。」「子どもと真剣に関われは関わるほど、子どもは心の中を教えてください。そして私の道も開けます。何も私一人で、肩肘張って進んでいかななくてもいい。私は、子どもから教えてもらうために、教壇に立っているのです。」「このように気付いてから、背負っている空気が軽くなりました。教壇に立っていて不安になることがあっても、この言

葉で自然と気持ちがすっきりしました。まるで魔法にかけられたかのように。

2005年、教室は明るい。私は毎日心から笑っています。子どもと過ごすのが楽しくて仕方ありません。今も子どもたちに教えてもらってはかりです。そろそろ恩返しをしないとけないなと思いつつも、まだまだ発展途上の私は、子どもたちにお世話になりながら、自分の道を開いていくでしょう。こんな素敵な教職につけて、幸せ者だと感じる今日この頃です。

◇ 芦屋市立打出浜小学校教諭 ◇

喜多 由理



喜多 由理(きた ゆり)

- 01年 教育学部小学校教員養成課程
数学専攻卒業
- 01年 大学院教育学研究科数学教育専攻
数学科教育学専修入学
- 02年 大学院に通いながら
私立親和中学校非常勤講師(数学)
- 03年 同大学院修了
- 03年 芦屋市立打出浜小学校教諭



◇大阪府立池島高等学校教諭◇

大橋 理絵

私は、2001年に大阪教育大学の
中学校教員養成課程家庭専攻を卒業
しました。その後、2年間非常勤講師
をして2003年春、大阪府の教員に
なりました。今は、教員生活2年目で
初担任に悪戦苦闘中です。最近よく思
うことは、大学時代にもう少し勉強し
ておけばよかったということです。それ
は教科、教育全体にわたるものを考
える機会が増え、考えるために必要な

知識を勉強しながら考える、というのは
非常に困難であるという事態に直面し
ているからです。
正採用の1年目は、授業担当で担任
ではありませんでした。その中で、家庭
科を通して生徒に教えたいこと、考えて
欲しいことを伝えようと必死な1年で
した。また、学校、教員生活に慣れるの
に必死でした。
2年目は、担任になりました。そして

2年目からは、自分の教科以外のさま
ざまな学校活動に関わる仕事があつて
きました。なかでも担任になると、右も
左も分からないまま体育祭、文化祭、保
護者懇談などの行事が過ぎていきまし
た。その行事二つでの生徒との関わり
は、私にとって何とも表現しがたい素敵
な時間でもあり、本当に大変な時間で
もありました。今、私は自分の担任する
クラスがとても気になります。恥ずかし
い話、高校生になっても掃除はしない、
「ゴミ箱」は捨てない、授業中は寝
ていると教科担当の先生に言われたり
しますが、とてもかわい、とても手のか
かる愛すべき生徒です。何とかクラスの
生徒が常識を持った社会人として社会
に出る為の準備の手助けができればと
毎日過しています。
実際は、単位の取得が危ない生徒と
放課後毎日勉強を一緒にしたり、できる
だけ生徒と多く関わるにつれ、朝意味も
無く教室に行ったりしています。それが
適切な方法かどうか自信はないので
が、とにかくできることをしつつしていま
す。その中で感じることは、今は歳が近
いということ、生徒はひととなつてく話
しかけてくれたりしていますが、それも
若いうちだけかなということ。今は、
若さを最大限に活用して、その関わり

の中から一人一人を見ていくことを心が
けています。

それと共に、焦っています。若さは時
と共に無くなります。それは、いまのう
ちに教師として実力をつけたいというす
べらかな教師になつてしまつたというこ
です。人として魅力ある、引き出しのた
くさんある先輩方がたくさんいらっしゃる
ので、真似をしたり、聞かぬは一生の恥と
思い、どんどん質問したりしています。
私の経験が浅く、生徒には迷惑をか
けていますが、共に成長できればと日々充
実した毎日を送っています。

今の学校には、若いがむしゃらなパー
が必要だと現場にいて実感しています。
自分の経験上、学生の人たちにとって、
教員への道はなかなか難しいとは思いま
す。しっかりと勉強して、若いがむしゃらな
パワーのある同僚が増えて一緒にがんば
りたいなあと思っています。

大橋 理絵(おおはしりえ)

01年 教育学部中学校教員養成課程
家庭専攻卒業

03年 大阪府立池島高等学校教諭

「大教大の夜間学部で、小学校教員の免許がとれるらしい。」そんなウワサを耳にしたのは、京都府鴨川の河原原のこと。当時の僕は、広告会社に勤めて6年目。仕事も収入もまずまずで、日曜日にはサッカーを楽しむ、そんな安定した暮らしぶり。ただ、心の中ではもっと自分らしく生きたい、という思いが募り、「子どものための仕事、できれば小学校の先生をしたい。」という夢を膨らませていたのです。けれど、何の保障もない時代。30歳を目の前にしての転身に、「夢を追うには遅すぎるか。」ともう二歩が踏み出せない、そんな時でした。

すぐさま大学に問い合わせしてみると、編入学制度があるとのこと。迷いは吹っ切れました。反対する上司、両親を説得し、編入学試験を受験。翌年の4月には、第二部のある天王寺キャンパスを歩いていました。会社を辞め、大阪に移り住んでの再出発でした。

子どもは大好きだったのですが、およそ「教育」とは無縁だった僕は、「ほんまに大丈夫かいな。」と気後れしていたものです。でも、二部の仲間達との3年間は、その不安を、自信に変えてくれました。二部では、19歳の人から50歳の現職の先生まで、誰もが「クラスメイト」。学年、クラスの別なく、まるで家族のように付き合います。授業は夕方5時45分から9時まで。当時は旧校舎で、夏はじ

り熱、冬はすき間風に苦しめられ、廊下を歩けば、ギシギシと不気味な音が響くという、夜間学校には考えられない環境でした。それでも、僕たちは毎日、喜んで通っていました。「夢に二歩近づいている。」そんな手心えを感じていたのだと思います。15分休憩に、食堂で夕飯をかき込みながら、バイト先である、学童保育の子ども達の報告をし合うのも楽しみのひとつ。放課後はテニスや、ギターのサークル活動、その後居酒屋へ行ったり、友達の家で語り明かしたり、と「夜の人」を満喫した3年間でした。

年齢や立場を越えて、仲間と話したのは、やはり「子ども」のこと。子どもや教育のことを真剣に考える、同志でした。お互いが教え合い、励まし合いました。それは、卒業した今も変わることはありません。

僕は今、河内長野市の小学校で4年生の担任をしています。子ども達と一緒に笑い、遊び、学び、泣き、歌って暮らしています。人に聞かれる度、迷わず「天職」と答えます。

会社員の時と比べると、給料は半分、忙しさは二倍です。でも、苦しいとか、嫌だとか思ったことは一度もありません。好きなことだからでしょう。仲間達も、それぞれの場所で同じように暮らしています。教師になって5年目の今も、迷ったときは、夜の大学で、仲間と語り合

た気持ちで僕を助けてくれます。夢を思い通りに実現できる人は、そう多くはありません。あの時、大阪教育大学に來られて本当によかった、と今でも思います。「ギシギシ校舎」も、僕にとっては、夢を叶えられた所、仲間ができた大切な場所でした。あの3年間は僕の宝物です。

◇ 河内長野市立三日市小学校教諭 ◇

団野 泰 昭

団野 泰昭(だんの やすあき)

- 92年 京都大学法学部卒業
- 92年 株式会社電通入社
- 98年 同 退社
- 98年 大阪教育大学教育学部
小学校教員養成5年課程編入学
- 01年 同 卒業
- 01年 河内長野市立三日市小学校教諭





富山有子

◇小林製薬株式会社 人材開発グループ◇

私は、1988年、教養学科の第1期生として入学し、当時の池田分校で大学生活をスタートしました。在籍していた「生活環境コース」は、学生11名に対して、先生3名と、非常に恵まれており、第1期生ということもあって、どんなことにもチャレンジさせていただけような気がします。また、教養学科には、本来であれば触れることのない他の専攻の授業を、ひとつずつ選択し

なければならぬという「学科共通科目」があり、これが、興味深くもあり、また難しくもありで、非常に苦労した思い出があります。先生方も、試行錯誤しながら授業を工夫していただいていたのではないかと思います。しかし、この授業は、「教養学科」が目指す「普遍的な教養を身につけ、幅広く探求する」ものであり、これによって1・2回生の間に、視野を広げていただいたと

感じております。

一方、専門分野については、3回生の段階からどういった方向に進みたいのかを考える機会をいただき、「より深く勉強することが出来ました。私自身、3・4回生のころは、今は退官された木村利三名誉教授のご指導のもと、2名の同級生と共に、卒業研究に没頭しました。当時、卒業と同時に、柏原キャンパスへの移転が決まっていたため、先生方のご配慮で、卒論発表会を出来上がったばかりの新校舎でさせていただきました。いただいたのも、良い思い出です。おかげさまで、卒業以来、毎年10月に、学内の旭ヶ丘会館にて同窓会を行っており、先生方と歴代の卒業生と共に、世代を超えた交流を行っております。

卒業後は、アンメツ、サワデー、熱さまシート、アイボン等、医薬品や家庭用雑貨品等を製造販売している小林製薬に入社しました。あたらしいなを私たちにして、お客様のTPOにおこたえするという企業姿勢と、学校、専攻に関わらず広く自律した人材を求めめる採用方針も魅力でした。

入社後は、「人事部教育課」で、新入社員研修や管理職研修などの社内教育の企画・実施を担当し、学校ではなく企業において、社員の能力開発の一端に携わることができました。その後、

社内報の編集作業等に携わった後、人材開発グループにて労務管理全般を担当。出産後は、新卒採用担当者として、多くの学生さんの採用に携わりました。多岐にわたる専攻の学生さんとお話をする際に役立つのが、学生時代に受講していたあの「学科共通科目」。その後、中途採用で幅広い職業の方とお会いするときは、すぐに会話の糸口を見いだすことができ、私の強みの一つになっているのではと思っております。今後も、企業内における、社員と仕事の適性配置や社員の能力開発について、様々な角度で支援していきたいと考えております。

最後になりましたが、昨年、国立大法学人として新しく出発した大阪教育大学の益々のご発展と、先生方、職員の皆様方と在校生の皆さんの活躍をお祈りしております。

富山 有子(とみやま ゆうこ)

- 92年 教育学部教養学科スポーツ・健康科学・生活環境専攻 生活環境コース卒業
- 92年 小林製薬株式会社入社
人事部教育課にて社内教育を担当後、人材開発グループにて、労務管理全般を担当。
その後、新卒採用等を担当した後、現在は、中途採用や選抜教育、人事制度企画に携わる。

僕が大学を卒業してからかれこれもう10年になります。十年一昔とよく言いますが、がむしゃらにやってきたせいかあつという間に感じ、2、3年前に卒業をしたかのような感じさえあります。

大学時代の思い出には、最初授業が始まった時、それまで定期的レッスンを受けた事がなく1週間に1回レッスンがある事にびっくりしてしまいました。

在学中中に大学の移転がありました。たが立派な図書館や山の家もあり、勉強や学生時代を過ごすにはいい環境でした。また個性豊かな先生もおられ、授業も楽しく感じられました。

卒業してからの1年目はフリーの演奏家として関西のオーケストラや音楽鑑賞を中心に行う団体のエキストラとして演奏活動をし、又日々の精進に努めていました。そして卒業から約1年後に大阪フィルハーモニー交響楽団のオーディションがあり、運良く合格することができ現在に至っています。

大阪フィルハーモニー交響楽団(以後大フィル)では定期演奏会10回(各2日間)を含め年間100回前後の演

奏会を行なっています。月にあては10回を越す演奏会がある時もあり各々に最低1日の練習が付きますので結構大変です。今でこそ余裕が少しできましたが入団当初は毎回違うプログラムを消化するのに必死でした。又今でもそうですが仮に同じ曲をやったとしても毎回指揮者が違う為、テンポや吹き方等が変わってしまいます。難しい所でもあります。そこが面白い所です。まだやれた事のない曲が沢山あり楽しみでもあります。

大フィルで活動する一方、小編成の室内楽5人から20人程までや吹奏楽等の演奏もしています。気の合う仲間達が集まり、大編成のオーケストラとはまた違った響きで演奏をするのもまた楽しく感じます。

今までは演奏活動の内容でしたが、もう一つ大事な活動があります。それは教育活動です。現在関西の大学や高校で後進の指導にあたっています。トランペットを習い始めた人やもうと上手くなりたい人の少しでも助けになればと思っています。自分が大学で伊藤先生から学んだことを中心に自分の考えもアレンジして一人でも多くの

人にトランペットを演奏する楽しさや、音楽の良さを伝えていきたいと思っています。

演奏することを通してトランペットの魅力や音楽の良さを一人でも多くの人にわかってもらえればと思います。そして音楽を聞くことで皆の気持ちが悪くなり、争いのない平和な世界が生まれたいなと願っています。

◇大阪フィルハーモニー交響楽団 トランペット奏者◇

秋月 孝之



秋月 孝之(あきづき たかゆき)

- 94年 教育学部教養学科芸術専攻音楽コース卒業
- 95年 教育専攻科修了
- 96年 大阪フィルハーモニー交響楽団入団
- 96年 日本音楽コンクール入選
- 現在、大阪フィルハーモニー交響楽団第一トランペット奏者。
- JAPAN BRASS COLLECTION、リアル・プラス、なにわウィンドオーケストラメンバー。
- 大阪音楽大学、兵庫県立西宮高等学校、おかやま山陽高等学校の各講師を務める。

◆大阪府警察ハイテク犯罪捜査官◆

福山 剛志



私は、大学卒業後、システム開発をしている民間企業に就職し、パッケージソフトの開発やカスタマイズ、ネットワーク管理などの業務をしていました。その後、大阪府警察のハイテク犯罪捜査官に応募し採用され、現在は、大

阪府警察のハイテク犯罪対策室で仕事をしています。

ハイテク犯罪対策室の業務というのは、インターネットなどのネットワークを利用した犯罪やコンピュータに対する犯罪、不正アクセス等のハイテク犯罪に対する捜査の支援を行うものです。

その中でも私の業務は、主にコンピュータ等に関する専門家として現場の捜査員等に対する捜査支援、助言をすると共に、一般の人がハイテク犯罪の被害に遭わないような予防対策を行うといったことをしています。

また、インターネットの世界では国境がないことから、海外を視野に入れながら仕事を進めたりしています。

私は、大阪教育大学が柏原キャンパスに移転した1992年に教養学系自然研究専攻物質科学コースに入學しました。

正直、入試を受けた時は、現在第二部で使用している天王寺キャンパスだったので、初めて柏原キャンパスに行きたときは、工事現場かと思った記憶があります。

また、現在は駅からキャンパスまで続いている日本の大学では最も長いエスカレーターも無く、毎日長い長い階段を暑い中、上がっていたのが懐かしく感じています。

2年目にバスが通り、3年目にエスカレーターができたときには、とても幸せに感じたものです。

最近大学を訪れた時には、現在のキャンパスはとても緑が豊かな良いところになちたなと感じました。

私は、今でもコンピュータ等に関する専門家として仕事をしていますが、大学入学時には、自然研究を専攻しており、まさかコンピュータに関する仕事をすることは思ってもいませんでした。

大阪教育大学の教養学科の特徴である自己の専門分野を十分に深めつつ関連分野を広く学ぶという教育方針の下、関連分野である他の専攻の授業を受けたのです。

特に情報科学、当時、大学等にも導

入を始めたばかりのインターネットや研究で使っていたデータベースに興味を持ったことがきっかけでした。

最終的に、卒業時、システム開発の仕事を選び、民間企業に就職、その後大阪府警察に採用となるとは思いもしていませんでした。

結果として、在学中に学んだ一番大きな事は、専門分野だけにとらわれて勉強しないこと、広く知識を身に付けるという姿勢でした。

実は、現在の仕事は、情報科学以外に法律等多くの分野に関する知識が要求されるので、学生時代、もう少し真面目に法律等に関して勉強しておいたらよかつたかなと思いつつ、現在も広く知識を身に付けるため、法律について勉強中です。

福山 剛志(ふくやまたけし)

- 97年 教育学部教養学科
自然研究専攻物質科学コース卒業
- 97年 システム開発関係の企業に就職
- 99年 大阪府警察ハイテク犯罪捜査官

附属学校紹介

大阪教育大学 附属高等学校 天王寺校舎

幅広いバランスの取れた科学教育を行っています

— 自然環境(野外)・生命論・模擬裁判演習・研究者招へい講座 —

附属高等学校天王寺校舎

副校長 柴山 元彦

本校では、科学教育に特に力を入れています。将来の日本や世界の科学技術発展・環境問題解決を担う人材の養成を指すとともに、基礎科学が理解できる社会人となるために、文系科目もバランスよく履修できるカリキュラムを設定しています。

★自然環境研究

— 地学野外実習・地理野外実習 —

一年生では野外学習として現地で地学の演習を行う日と、地理のフィールドワークを行う日がそれぞれあります。学校で学んだことを野外で実物に触れます。



滋賀県今津町での地理野外実習。天井川を調査。



岸和田市蓑原での地学野外実習。地層の傾きを測っています。

★生命論

— 生物と倫理の科目融合 —

三年生の選択授業の中に学校設定教科「生命論」をおいています。この授業は社会と理科の教員が共同して授業を展開しています。生命科学の急速な進歩により医療技術だけでなく、生命の質に関する倫理的問題は避けて通れない現状にあり、議論や観察実験を通じてさまざまな視点や立場の違いを理解していく中で生命観の形成を目指しています。



「生命倫理」の授業の様子

★研究者招へい講座(SPP)

— 理・工・医系大学教員を

講師に招いています —

二年度にわたり文部科学省のサイエンスパートナーシッププログラム(SPP)の指定を受けています。希望者を対象に土曜日に研究者を招いて講義や実験をしていただいています。十五年度は22名、十六年度は10名の研究者に、最先端の科学技術を紹介していただきました。



「内視鏡の世界 癌は切らずに治せる」の講義



留学生の眼

ミハエル・フンメルさん (ドイツ出身)

Michael Hummel エアランゲン・ニュルンベルク大学交換留学生

日本の中学校で、はじめて先生になりました。

●日本の社会や文化を深く知る事ができた。

一年の留学期間では短すぎると思います。日本に来てもう4ヶ月になりますが、とても早く過ぎたような気がしています。

私はドイツで日本学、教育学それに心理学を勉強しました。日本学の勉強を始めたころから、日本に行くことに憧れていました。教育学も勉強しているので、大阪教育大学を選びました。奨学金をもらえたので、日本に来られるようになりました。奨学金がなければ日本に来られなかったのも、その返事が来たときはとてもうれしかったです。私の念願であった目的地にやっと着きました。

日本に来る前に大阪教育大学についていろいろな話を聞きました。たとえば「授業が難しくて、初めは何もわからない」とか、「イノシシがいる」というような話でした。私は授業が一番不安でした。



確かに今は難しいですが、面白いです。私はここに来てイノシシは一頭だけ見ましたが、猫がすごく多いのにはびっくりしました。

大学に入ってすぐに他の留学生や日本人の友達ができました。友達は私が困ったときには助けてくれますし、暇な時には友達と楽しい時間を過ごしています。一緒に観光をしたり、日本の食べ物を料理して食べたり、パーティーをしたりしています。留学前に3週間の観光旅行で日本に来たことがあり、たくさんの新しいことを発見できましたが、その時は日本の社会と文化の表面だけしか知ることができませんでした。しかし今は、日本の社会や文化についてより深く知ることができて興味深いです。

また、教育学の授業の中では学校で教える機会がありました。中学校でドイツについてやドイツの言葉を教えることができたのです。初めて先生になって面白い経験でした。また、最近剣道クラブに入りました。ドイツには日本のような大学のクラブ活動がなく、剣道場もあまりありません。だから、ずっと以前から興味があった剣道をここですることができて本当にうれしく思っています。剣道は私にとってまだ難しいですが、がんばるつもりです。

●ドイツに戻って教員になりたい。

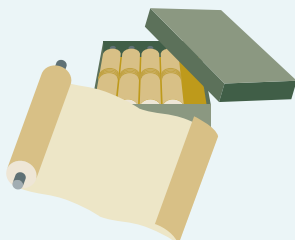
ドイツに帰る前に私はまだまだ多くのいろいろな経験をし、新しい友達を作りたいと思っています。留学後、ドイツの大学でまだ3年間か4年間くらい勉強しなければなりません。しかし、休暇にはまた日本に来て、観光などができればと考えています。大学卒業後は教員になるつもりです。日本と大阪教育大学で経験したこと、学んだことは決して忘れません。



お気に入りの本 「五輪書」

宮本武蔵の「五輪書」は武道をされていない方でも、名前を知らない人はいない名著です。実物は「地・水・火・風・空」五巻の巻物ですが、現在は多くの出版社から活字化されています。私は岩波文庫ワイド版「五輪書」が手軽で読み易く愛用しています。この本は武芸伝書として秀作ですが、身体論・生活訓・人生訓としても優れています。例えば「有構無構のおしへの事」では「構えはありて構えはなき」と記し、対峙した時、意識して構えをつくるのではなく、融通自在に心と体をしておくことで、状況に応じて自然に構えができると教えています。これは対人関係にも通じる教えです。また「太刀の持ちようの事」「足づかいの事」など、現代スポーツのグリップやフットワークなどの身体操作法につながる教えもあります。

武芸伝書を武道だけのものと決め付けるのではなく、多方面から眺めると、興味深く接することができます。是非一度、手にしてみてください。



太田 順康

(教員養成課程保健体育教育講座助教授)



キャンパス散歩



金剛生駒紀泉国定公園内に位置し、緑豊かな山々に囲まれている柏原キャンパス。山の緑は初夏には新緑、秋には紅葉と、四季折々の表情で目を楽ませてもらえます。

キャンパス内にも、桜や楓、花水木などの他に、柏原市の木である児手柏(このてがしわ)や、事務局棟玄関前の百日紅(さるすべり)、共通講義棟横の月桂樹といった旧分校から移植された樹木など、様々な種類の木々を楽しむことができます。

普段なにげなく見ているキャンパス内の樹木も、よく見るとあらたな発見があるかもしれません。一度木々の下で足を止めてみてはいかがでしょうか。



◆平成17年度公開講座実施予定◆

対象	講座名	実施時期	時間帯	募集人員	開講 キャンパス	募集時期
学校教職員	実践小学校英語教育法・入門	4/15 ~ 7/22	18:30 ~ 20:00	25	天王寺	3/17 ~ 3/30
	実践小学校英語教育法・中級	10/7 ~ 1/13	18:30 ~ 20:00	25	天王寺	9/5 ~ 9/16
	EXCELで学ぶ公衆衛生・健康教育講座(基礎編)	5/14 ~ 6/25	13:30 ~ 16:30	30	天王寺	4/11 ~ 4/22
	SPSSで学ぶ公衆衛生・健康教育講座(初級編)	7/23 ~ 8/20	13:30 ~ 16:30	30	天王寺	6/20 ~ 7/1
	SPSSで学ぶ公衆衛生・健康教育講座(応用編)	9/24 ~ 10/15	13:30 ~ 16:30	30	天王寺	8/22 ~ 9/2
	生活(染と織)	7/2 ~ 7/30	13:30 ~ 15:30	15	天王寺	5/30 ~ 6/10
	手軽に楽しむ染め	8/26、8/27	10:00 ~ 16:00	25	柏原	7/25 ~ 8/5
	国語の力 授業に生きるコミュニケーション力の育成	8/6	10:30 ~ 16:20	25	柏原	6/20 ~ 7/1
	小学校のベテランの先生の指導によるワークショップ	8/1	9:30 ~ 16:00	30	柏原	6/27 ~ 7/8
	小・中学校教員のためのパソコン教室(基礎編)	8/1 ~ 8/4	10:00 ~ 15:00	35	天王寺	
	小・中学校教員のためのパソコン教室(Excel編)	8/26 ~ 8/29	10:00 ~ 16:00	30	天王寺	7/19 ~ 7/29
	社会科授業研究入門	8/6、8/7	10:30 ~ 14:30	40	天王寺	7/4 ~ 7/15
	障害児教育の現状と課題2	10/22、10/29	10:00 ~ 16:00	20	天王寺	9/20 ~ 9/30
	一般市民	ドイツ語会話 初級から中級へのステップ・アップ	4/19 ~ 7/12	19:30 ~ 21:00	15	天王寺
中国語 初級		4/12 ~ 12/20	17:45 ~ 19:15	10	天王寺	
中国語 中級		4/12 ~ 12/20	19:30 ~ 21:00	10	天王寺	
韓国語 (韓国語会話と韓国文化論)		4/12 ~ 1/24	19:30 ~ 21:00	10	天王寺	
語学講座	タイ語講座A	7/23 ~ 9/24	16:00 ~ 19:15	25	天王寺	6/20 ~ 7/1
	タイ語講座B	7/26 ~ 9/27	19:00 ~ 20:30	25	天王寺	
	タイ語講座C	5/7 ~ 7/9	16:00 ~ 19:15	25	天王寺	

対象	講座名	実施時期	時間帯	募集人員	開講 キャンパス	募集時期
一般市民	市民のためのパソコン教室 基礎編A	5/14、5/21	9:30 ~ 12:00	30	天王寺	4/11 ~ 4/28
	市民のためのパソコン教室 基礎編B	5/28、6/4	9:30 ~ 12:00	30	天王寺	4/11 ~ 5/13
	市民のためのパソコン教室 基礎編C	6/11、6/18	9:30 ~ 12:00	30	天王寺	4/11 ~ 5/27
	市民のためのパソコン教室 基礎編D	6/25、7/2	9:30 ~ 12:00	30	天王寺	4/11 ~ 6/10
	パソコンで遊ぼう 自分だけの図柄をTシャツにプリントしよう	8/6	10:00 ~ 17:00	14	柏原	7/4 ~ 7/15
	パソコンで遊ぼう インターネットで情報収集し、パワーポイントでプレゼンテーションしよう	8/7	10:00 ~ 17:00	14	柏原	
	書(春)	4/14 ~ 7/21	18:30 ~ 20:00	20	天王寺	3/14 ~ 3/25
	書(秋)	10/6 ~ 1/26	18:30 ~ 20:00	20	天王寺	9/5 ~ 9/16
	書道に親しむ(臨書)	8/23 ~ 9/27	13:00 ~ 16:00	20	柏原	7/19 ~ 7/29
	美術(陶芸・入門)	5/28 ~ 1/28	10:30 ~ 12:30	20	天王寺	4/18 ~ 4/28
美術(陶芸)	5/28 ~ 1/28	13:30 ~ 15:30	20	天王寺		
美術実技 - 絵画表現の基礎 -	7/25 ~ 7/29	13:00 ~ 16:00	25	柏原	6/27 ~ 7/8	
楽しいジョギング教室	7/9 ~ 9/24	17:00 ~ 19:00	30	柏原	6/6 ~ 6/17	
楽しいダイエット教室	7/15 ~ 10/15	10:00 ~ 17:00	30	柏原	6/13 ~ 6/24	
音楽実技公開講座 ~ 音楽を学ぶ人のためのA ~	7/16 ~ 7/17	10:00 ~ 12:00	10	柏原		
音楽実技公開講座 ~ 音楽器(フルート・トランペット)を学ぶ人のための ~	7/16 ~ 7/17	10:00 ~ 16:00	10	柏原		
音楽実技公開講座 ~ 弦楽器を学ぶ人のための ~	7/16 ~ 8/27	10:00 ~ 16:00	20	柏原		
高校生	電子工作を楽しもう	8/3、8/4	10:00 ~ 16:00	10	柏原	7/4 ~ 7/15
	音楽実技公開講座 ~ ソルフェージュ・トレーニング ~	7/16 ~ 7/17	10:00 ~ 12:00	30	柏原	6/13 ~ 6/24
	音楽実技公開講座 ~ 音楽を学ぶ人のためのB ~	7/16 ~ 7/17	10:00 ~ 16:00	10	柏原	
	音楽実技公開講座 ~ ピアノを学ぶ人のためのA ~	7/16	10:00 ~ 16:00	20	柏原	
	音楽実技公開講座 ~ ピアノを学ぶ人のためのB ~	7/17	10:00 ~ 16:00	20	柏原	

講習料や実施日程などの詳細は、次のホームページアドレス等で随時お知らせしますので、あらためてご確認ください。<http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/llc/>
【問い合わせ先】大阪教育大学生涯学習教育研究センター(TEL 06-6775-4221)
3月末迄は、総務部企画広報課(TEL 0729-78-3220)までお願いします。

『天遊』とは

「天遊」は、荘子の言葉から引用されたもので、人間の心の中に自然に備わっている余裕をあらわしています。キャンパス統合移転の記念に旧師範学校以来の同窓会3団体から寄贈された記念碑に銘文として刻まれています。



本誌にご意見をお寄せください

本誌『天遊』は今後の誌面づくりに皆様のご意見を積極的に取り入れていきたいと考えています。ご感想やご意見、大阪教育大学についてお知りになりたいことなどを聞かせください。

宛先 〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1
国立大学法人大阪教育大学総務部企画広報課
TEL.0729-78-3344 FAX.0729-78-3225
E-mail kikaku@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

ホームページ <http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/>

和歌のしらべ



编者：小野 恭靖

(大阪教育大学助教授)

大阪教育大学生協同組合
国立民族学博物館
大阪歴史博物館
などで販売

定価1,050円(税込)

遊び心を取り入れた和歌アンソロジー「和歌のしらべ」が、産学連携共同研究「21世紀型学習支援用具の開発」の成果として商品化されました。

百人一首をはじめとする秀歌撰から366首を厳選し、一年365(366)日の暦日にあわせ、一日一枚ずつに和歌一首と現代語訳および解説を記載しています。

これから和歌を詠んでみようという若者から、百人一首では物足りないシニアまで、毎日楽しめる新しいタイプの選歌集となっています。



古紙配合率100%の再生紙を使用しています。



アロマフリー型大豆油インキを使用しています。